

'76 夏山

個人山行

報告書 I

黒部源流

後立山縦走

信州大学山岳会

伊那松本山岳部

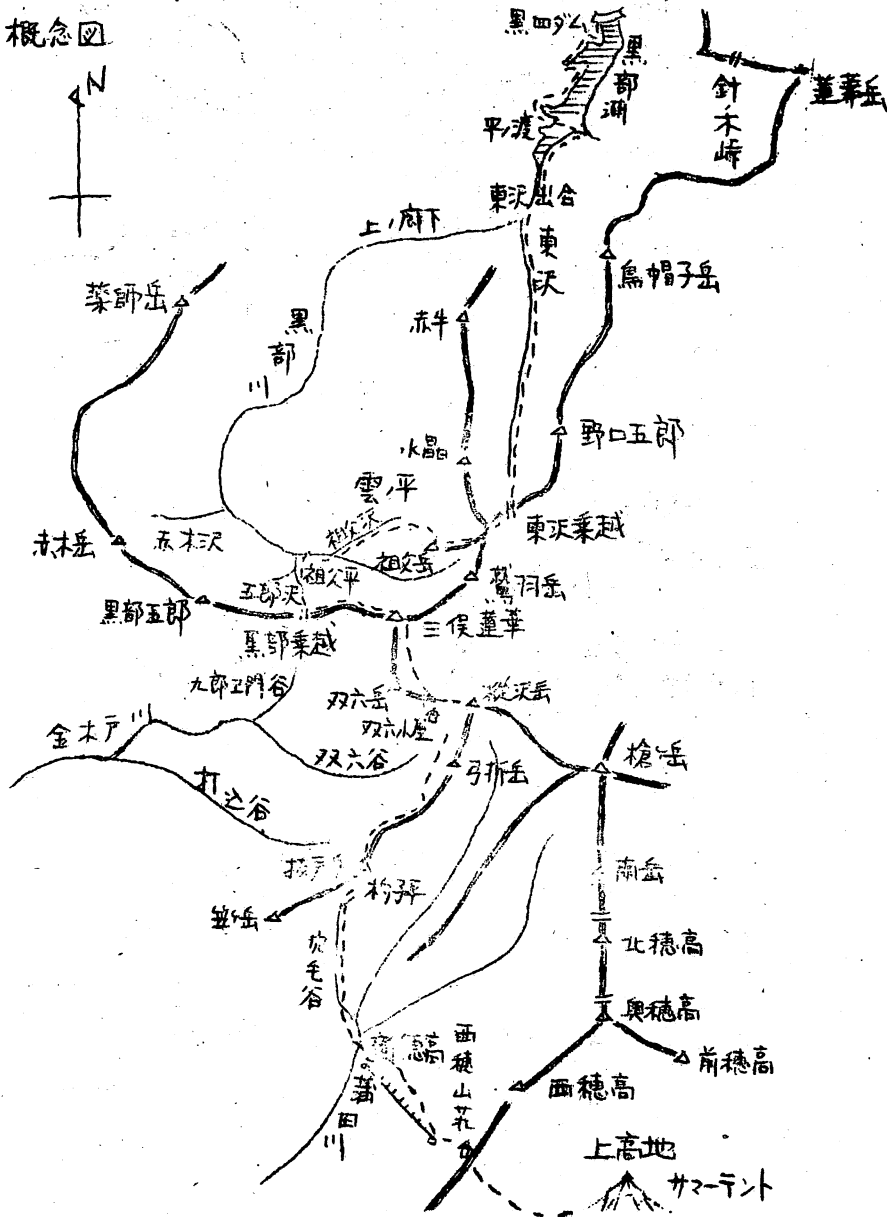


黒部源流

1. 期間 '76 8月4日～8月11日

2. メンバー L 節田 (IM3) 古橋 (VA4) 下田 (IA2)
田中 (IA1) 藤本 (IS1) 春田 (IM1)

3. 概念図



4. 行動概要

8月4日 ①

穴毛谷

サマ天(5:30) — 西穂山荘(7:50) — 新穂高(10:55) — (15:10) センバ出合対岸

西穂山荘の村上さんに登山道の状態を尋ねると、刈払いをしたので、ロープウェイには乗るなどのこと。しかしあまりよい道ではなかった。穴毛谷本谷は明るい谷だが、浮き石が多く、センバ出合上の高巻まで、田中が落石を受け(起こして)負傷(右足膝部)。さらに穴毛谷付近から古橋さんが不調となり、午後3時をすぎてもいたため、結局 センバ出合対岸の左岸の緩斜面にフライートのみ尾根に張って設営。

8月5日 ② → ●

T.S.(7:10) — 杓子平(7:50) (フライを張いてのち沈殿)

時に強く時には止みつも、一日「やらしく」雨が続いた。今日はフライを凸(尾根)型に低く張ったが、横からの風と雨に全員震える。フライは午前の大雨で限界、中に半人がたぬてくる。

8月6日 ● 一時ガス

沈殿!!

何もするに及ばずゴロ寝とキジ打ちのくり返し。

8月7日 ● → ② ⇔ ①

又沈殿

前日より雨が明け方頃まで続き、よく寝られなかった。雨が止んで少し青空が現れ、消えたりは、少しよい天気は昼頃まで続く。13:00頃 三俣さん、片山さん、山崎の3人のパーティーが笠から杓子平へ降りてくる。同じ場所にヤル木を張ることになり、エッセンを共同でつくる。夕飯後、酒をくみかわす。

~~8月8日 ① ⇔ ②~~ 8日は晴小だったが、台風1号の接近や気温等の理由で、打込谷から金木川の予定をカットし、稜線から黒部五郎沢へ行き相父平へ下ることに計画変更。

8月8日 ① ⇔ ②

(15:50)

T.S.(6:40) — 双六小屋(11:10) — 三俣蓮華岳(13:05) — 黒部乗越(14:25) — 相父平

我がパーティーは稜線に出る。打込谷を見降すとやはり下りたくなり、(しばらく考えながら)打込谷へ下ると決定。適当な所からハイマツの中を下り出ると、田中が負傷した足の異常を訴え、下降は少し無理とのこと。よって稜線を行く。夏にしては寒く休んでいると体が冷える。三俣蓮華岳 OBの川崎さんに会い、数分話す。黒部五郎小屋のすぐ横から踏跡があり、しばらく五郎沢と平行に下る。しばらくすると沢にはいり沢下りとなる。黒部源流に出るからしばらく上流に遡り、相父平出合の台地に着く。

後立山縦走

1. 期間 76 7月15日~7月19日
2. メンバー L春田 (IMI) 田中 (IAI)
3. 行動概要

7月15日 ㊦

松本 ~~→~~ 平岩 ~~→~~ ヤマノ平 (10:45) - 蓮華温泉 (11:15) - 天狗の荘 (13:55) - 白馬大池 (15:10)
2人とも 町の生活の不節制のため、初日の登りにバテる。高曇りだったので 雪倉方面がよく見えた。バズがまた「夏季サ」代にな、いなくて出衆が戻ったこともあり、白馬大池で3時だったので、それにバズもいたし、池畔のテニ場が とろも気持ちよかつたため、先へ進まずに設営。

7月16日 ㊦/㊦ → ㊦

T.S. (4:20) - 三國境 (6:05) - 白馬岳 (7:00) - 天狗山荘 (10:20) - 不帰2峰 (13:15) - 磨松山荘
白馬大池から白馬岳は思ったより長かつた。白馬岳からは 時折り霧に包まれたけれど ^(14:20) 針立山方面も見えた。天狗山荘で再び日が差し、小屋前の雪渓が気持ちよく、雪を倉べたりして時間を愈す。不帰2峰からは 曇りと霧の中、一般縦走路には せや困難な登降、前のパーティーが遅くて 待て場面もある。磨松の登りから雲が低くなり、頂上で雨も降りだし 視界なし。慎重に道を拾って磨松山荘下の天場へ。水田雪田がとる。

7月17日 ㊦ ㊦ → ㊦ ㊦

T.S. (5:20) - 五竜岳 (8:55) - キレット小屋 (12:15) - 鹿島槍吊尾根 (13:55-14:50) ^{下流} → 北峰往復
- 南峰 (15:30) - 冷池手前 (17:00)

五竜岳へは 岩が日に輝き快適。頂上ではよく晴れて 行くこの鹿島槍や 西の針立山連峰、後に 白馬方面の山(粉雲の中)など 眺望よし。五竜の下りには 岩がゴツゴツに歩きづらかつた。キレットは、不帰くらいに せや難路。なお、キレット小屋では カクネ里側を見に行くと、小屋の人を怒らせた。また、曇り肌寒い中 鹿島槍吊尾根へ。ゴミでよごれていて 失望。霧の中 北峰往復、南峰へむかうと 雨がふり出す。南峰の登りも 岩が濡れて せや緊張。その下りでは 風雨に じじあられる。冷池のテニ場は 混雑して いたし、水も 雪を溶かすしかないようなので、少し戻った 樹林中に設営。水は 雪田を割って 得る。

7月18日 ㊦ → ㊦ → ㊦ → ㊦ → ㊦

T.S. (5:45) - 爺岳 (7:20) - 種池テニ場 (8:10) - 新越乗越 (10:05) - 鳴沢岳 (10:45) - スバリ岳 (13:40) - 針木岳 (14:40) - 針木峠 (15:10~16:30) - 大沢小屋 (18:20) - 設営地

朝霧の中斧ノ岳へ。三つめのピークのみ踏む。種池のテニ場のすぐ脇に小雪求
があり、とこそよい(後立山中 翠高?)の水場が雪を割ってつくてあった。俄雨^の止む
のを待て本とは曇天下 黙々と歩く。鳴沢から赤沢にかけても 時々雲間から
黒部湖が見えただけで おもしろくない。スバリから先は霧で寒かった。針木時に設管
しようとして、水流を得るため 針木雪渓上部を穿り、たが失敗。雨もふり出し、天気図を
とると 天気が悪くなり 台風も来そうだ。稜線に"はけ"では辛いと思ひ、すぐ針木雪
渓を下ることにする。雨も小降りから霧になったが 霧の中から不意にあふ山が
しなな 落石に恐怖し 慎重に下る。心配は徒勞にあつたが、大沢小屋のテニ場
は一帯で、最終バリエーションに合わないので、大沢小屋の一本下くらいに沢が左か
ら入ると3時に設管。夜、雨が激しく "はけ"も水が濡れたが 稜線にはより ずっと安心
であった。

7月19日 ●

T.S. (7:30) - 扇沢 (8:30) - 大町 - 松本

雨の中 徹夜し 扇沢へ。ちよとの差で 前のバスを逃す。雨でかなり濡れて 気
持ち悪く、白こいたので、アパレルのバスでとるりの女子もいやな顔をしていた。

4. 感想

後立の稜線からの展望を期待していたのに 天候に裏切られた。
白馬と辰島槍はやはり 魅力ある山で 積雪期に行、てみたい。(田中)

同上。天候も体調も思わしくなく、数年来 憧山の後立で 失望した。
日程の都合で 針木までであったが、天気の好いとき 草花も愛でながら
ずっと南下したら おもしろいと思ふ。リーダーとしては 失格^なで 自分の
勝手のみ押し通したよ)で 田中には 済むな^いと思つている。まあ 不慣れな
今年の夏山の天気の中で 蘆華岳こそ行けなかったが、予定を消化でき
たことはよかった。(春田)

1944

SIMACSIMACSIMACSIMACSIMACSIMAC
夏山 個人山行報告書 I
(黒部源流)
(後立山縦走)
昭和51年10月17日発行
(130部)
信州 ~~松本~~ 大学山岳会
伊那松本山岳部
SIMACSIMACSIMACSIMACSIMACSIMAC